

昭和55年度常緑果樹関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要(追補)

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和56年2月27日(金)、静岡市たちばな会館で行なわれた昭和55年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会において、成績の報告・検討・判定が保留になっていた生育調節剤CaCO₃(クレフノン)水和剤の晩柑類に対する効果試験について、去る5月29日(金)、福岡市にて試験場および委託関係者36名が参集のもとに開催され、果樹試験場口之津支場他14場所の試験成績の発表・検討がなされた

その成績の判定結果は、次のとおりである。

CaCO₃(クレフノン)水和剤

1. 全体判定：実・継
2. 晩柑類の種類別判定および判定理由または内容：

(1) ナツダイダイ：実・継

実；〔着色促進および予措効果〕収穫前、50倍液，2～3回処理。

継；①早期処理の効果。

②作用機作。

(2) ハッサク：継

①(着色促進・増糖効果について)早期処理の効果。

②貯蔵中の果皮障害(ズル症)の発生防止効果。

③虎斑症について、散布時期・濃度と貯蔵条件との関係。

(3) ネーブルオレンジ：実・継

実；〔着色促進および予措効果〕収穫前40・20・10日，50倍液，3回処理。

継；処理時期・散布回数および濃度(特に各品種について)。

(4) イヨカン：実・継

実；〔着色促進および予措効果〕収穫前20～10日，50～100倍液，1～2回処理。

継；散布時期・濃度および処理果の貯蔵条件について。

(5) ポンカン：実・継

実；〔着色促進および予措効果〕収穫前30・20・10日，50倍液，3回処理。

継；散布時期および処理果の貯蔵条件について。

(6) 日向夏：実・継

実；〔着色促進および予措効果(予措はオレンジ日向のみ)〕着色期，50倍液，2回処理。

継；予措効果の確認。

(7) 土佐文旦：中止

効果不明確。

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤、生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20～30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規程によりお支払いいたします。